

いじめを速やかに解消した事例5（中学校第3学年男子）

～スクールカウンセラーとの連携による組織的な対応～

問題の把握

中学校第3学年の男子生徒Cは、同級生から、からかいを受けるなど、友達とのトラブルが絶えなかった。また、友達と良好な人間関係を構築することができないことや、友達とうまく会話をする事ができないことに悩んでいた。

学校では、学級担任や養護教諭を中心に教育相談を行いながら、当該生徒の悩みやトラブルに対応していた。

このような中、当該生徒は、学級担任に対して、修学旅行の事前準備中に友達からいじめられていると訴え、学級担任が事実確認を行ったところ、いじめであることが確認された。

対応状況

組織的な対応

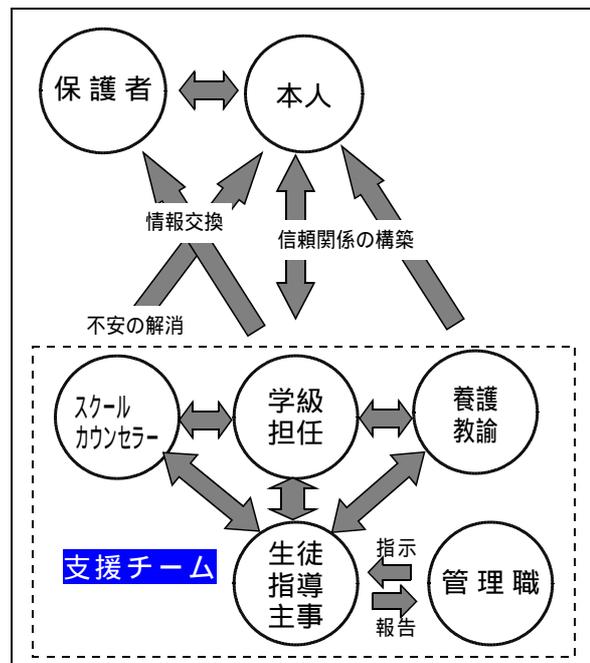
- ・スクールカウンセラーを加えた支援チームを設置し、学級担任や養護教諭の情報を基に支援計画を立案した。

学級担任の加害生徒への対応

- ・学級担任は、支援チームの方針に基づき、加害生徒に対して「いじめは絶対に許されない」という毅然とした姿勢を示した。
- ・加害生徒と当該生徒に、自分や相手への気持ちを文章に書かせるなどして、両者の人間関係の改善を図った。

スクールカウンセラーの当該生徒への対応

- ・当該生徒に対して、これまでの学校生活で嫌だったことや困ったことなどを話す場として相談室を活用するよう勧めるとともに、いつでも相談に来るよう伝えた。
- ・当該生徒は相談室を訪れ、自分が苦手としている学校行事への参加や、準備等への不安や悩みを話すようになり、友達とのトラブルが減少した。



いじめの問題を速やかに解消するためのポイント

- ・学級担任等が「いじめは絶対に許されない」という毅然とした姿勢を示すとともに、支援チームによる組織的な対応を行ったことにより、いじめの早期解決につながったこと。また、生徒に自分の内面を見つめさせたことにより、人間関係の改善が図られたこと。
- ・学級担任や養護教諭、スクールカウンセラー等が情報を共有し、支援チームの方針を立てたことにより、役割分担を明確にした取組を進めることができたこと。